

第11回全日本マスターズホッケー大会 競技運営規程

- 1 大会運営 本大会の運営は2013年度版公益社団法人日本ホッケー協会競技運営規程並びに第11回全日本マスターズホッケー大会実施要項による。
- 2 競技規則 2013年度版公益社団法人日本ホッケー協会6人制ホッケー競技規則による。
- 3 競技時間 試合時間は、前半15分・後半15分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
- 4 競技方法 女子(over35)・男子(over40・over48・over56・over64)は、予選リーグ、決勝リーグ及びトーナメント方式で順位を決定する。詳細については、別紙試合方法を参照する。
- 5 延長戦 すべての試合において延長戦は行わない。
- 6 リーグ戦の順位決定方法 (1)勝点の多いチームを上位とする。勝点は、勝利チームに3点、引分けチームに1点、敗戦チームに0点をそれぞれ与える。
(2)勝点と同点の場合は、下記の順位決定方式により順位を決定する。
①勝利数の多いチームを上位とする。
②得失点差の多いチームを上位とする。
③総得点の多いチームを上位とする。
④当事者同士の対戦結果で勝利チームを上位とする。※〔この項は変則リーグ(4チームリーグ)の場合は、①勝利数の次にはいるものとする〕
⑤7.に定めるペナルティーストローク戦により順位を決定する。
- 7 ペナルティーストローク戦(PS戦) (1)両チームの主将は、自チーム内よりレッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、出場登録済みの選手の中から3名の選手(ストローカー)と1名のG.Kを指名する。

(2)両チームの主将によりトスを行い、先攻後攻を決める。その後両チーム3名ずつのストローカーにより交互に攻防を1巡行い(計6本)、得点数の多いチームを勝者とする。たとえ6名の選手全員がストロークを終了していなくても、勝敗が決まった時点でPS戦を打ち切る。

(3)(2)の方法によっても勝敗が決しないときは、「サドン・デス方式」すなわち両チームが同数のストロークを行った中で最初に得点した方のチームを勝者とする方式。方法は、再びPS戦を行い、最初先攻のチームが後攻となり、選手はプレー不可能な者を除き各チームは最初と同じ選手で行う。但し、順序は変えてもよい。
- 8 試合の中断と追試合 天候等のやむを得ない理由により試合が中断された場合は、下記によって試合を再開する。
(1)追試合の場合は、中断したときの得点で残り試合のみ試合を行う。
(2)追試合の期日・競技場・オフィシャル・審判員等は、これを変更することができる。
- 9 競技用ボール 本大会に使用するボールは2013年度(公社)日本ホッケー協会公認ボールとする。
- 10 チームベンチ チームベンチには、エントリーされた15名(監督1名・役員2名・選手12名内)の者以外は入ることができない。(但し、TDの許可を受けた者はこの限りではない。)
- 11 フィールドへの入り (1)試合中は、該当審判員・試合に出場している選手以外は誰もフィールド内に入ることができない。但し、該当審判員の許可を得たものはフィールド内に入ることができる。
(2)試合中、選手にケガ等が起こった場合は、ベンチ内にいる役員の内1名が、該当審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができる。

- 12 選手の交代 (1)選手の交代は、その試合にエントリーされた者の中から選ばれる。
(2)各チームは試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティコーナーが与えられている間は負傷しプレー不可能となった守備側の GK を除き、誰も交代できない。
(3)選手の交代は、何回行ってもよい。
(4)一時退場（イエローカード：3分以上）させられた選手に対する交代は、該当選手の退場時間中は許可されない。
(5)選手の交代は、ジャッジ席前方 3m 以内（引いてあるラインが目印）で行われる。その際、時間の停止は行われぬ。但し、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。
- 13 抗議制度 全日本マスターズホッケー大会において、抗議制度はない。
- 14 その他 (1)各チームのプレーヤーは正規の背番号をつけ、大会期間中は変更できない。
(2)キャプテンは、左上腕にキャプテンマークを必ず付けること。
(3)ユニフォームは必ず 2 着準備し、グラウンドへ持参すること。
(4)選手はシャツ（ブラウス）の裾を常にきちんとパンツ（スコート）の中に入れ、すね当てを必ず着用し、ストッキングを上まであげて履くこと。
(5)ゴールキーパーは、装具を完全に着用すること。
(6)ベンチは、〔組合せ日程表〕の左側のチームがジャッジテーブルから見て左とする。
(7)第 1 試合開始 8 分前にジャッジテーブル前でリングパス及び服装・装具の点検を実施する。又、チーム 2 試合目以降はリングパス等の点検は行わない。（2 日以降も同じである）ただし、2 試合目以降の時間が押している時は、ジャッジ席裏でリングパス等の点検を行う。
(8)試合のエントリーフォームは、提出する必要があるものとし、プログラム記載の通りとする。但し、試合開始前にチーム責任者はオフィシャルテーブルにて、先発メンバーを申告すること。
(9)試合中、乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は厳に戒める。（監督・コーチ・フィジオ・応援団についても同じである。）
(10)選手が負傷により出血したとき、肩より上にボールが当たったときはただちにタンカに乗って退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、再出場できない。また、この場合も含め、手当てする者等が該当審判員の指示によりフィールド内に入った場合は、2 分間は再出場できない。（ゴールキーパーはこの限りではない）
(11)競技中の疾病・傷害等については、大会本部で応急処置を行うが、その後の治療等については各チームの責任において行うこと。
(12)棄権または試合中の退場・ケガ等により、1 チームの人数が 3 名以下になったときは、その試合は、没収試合とする。
①予選リーグ・決勝リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、残りチームのみで順位を決定する。
②今大会における、没収試合があった該当チームの記録上の得点は、すべて 5 対 0 となる。
(13)その他、本規程に定めぬ事項、または不測の事態が発生した場合は、TD・大会本部の指示に従うこと。